視写「初恋のやり直し」　山之口貘

名前（　　）

▼小学校の六年生になってからのこと、ぼくは机の前に座っていても、それは父や兄などの手前で、勉強しているふりをしているにすぎなかった。ある少女のことに気をとられていたからなのである。少女はしばしば、ぼくの家の近所に遊びに来た。そこには沼があって、その沼の水のなかに、少女は着物のスソをまくしあげてはいった。水すましやげんごろうが、彼女のスネのまわりを泳ぎまわり、彼女は腰をこごめて浮草などを、手にすくったりして遊んだ。▼その少女が、いつも、ぼくの頭のなかにこびりついていて、机を前にしては勉強しているふりをしているうちに、中学の入学試験には落第してしまった。▲

▼

▲

▼

desafiante.net